

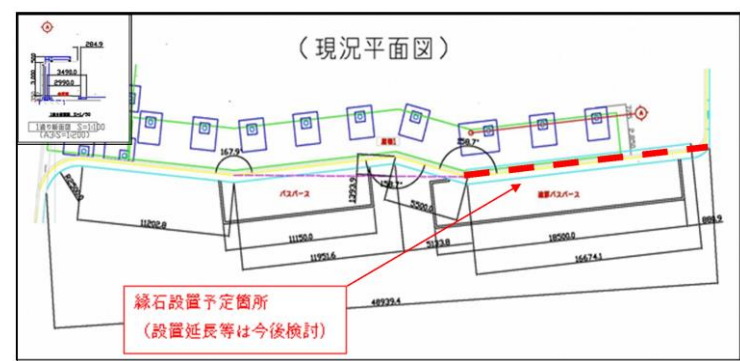
1. 実験概要、留意すべき事項

- バス停に寄せやすくするバリアレス縁石を試験的に導入し、バス車両を確実に完全正着させ、これまでバス停車帯として利用していた道路空間を将来的にはバス待ち空間(歩道空間)として活用するなど、道路空間の再構築、バス停のバリアフリーについて検証する。
- バスの正着性に関して、バリアレス縁石を試験的に導入していること。

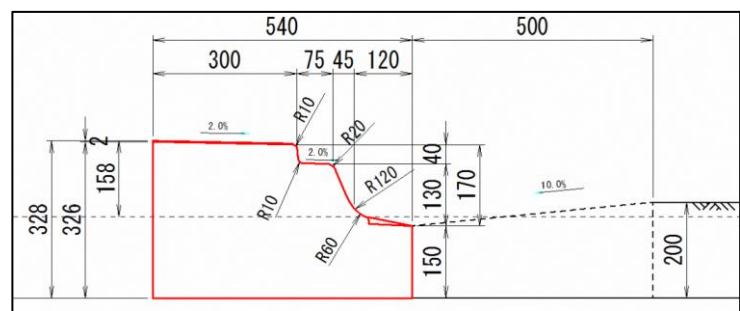
2. 今年度の調査内容、調査結果

【実験企画作成、実施設計】

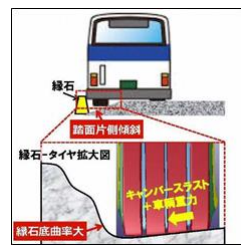
- ① 実施計画の策定⇒協議会を開催し、取り組み内容について検討、策定
- ② 車両諸元の寸法⇒運行する車両の寸法を計測
- ③ 実験対象箇所の調査⇒バス停留所を現地計測
- ④ 導入する縁石⇒導入する縁石を選定、停留所形状を検討



バリアレス縁石設置位置図



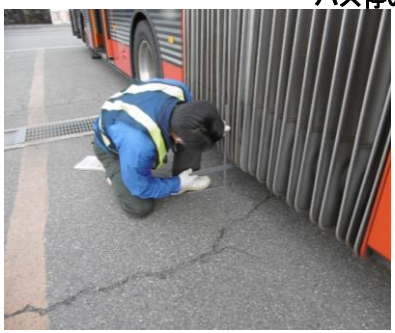
導入縁石の選定結果



縁石部拡大図



バス停の現状



車両の寸法計測



バス停留所の現地計測

【複数年度】新潟市バス停バリアフリーの推進に向けた社会実験(新潟県新潟市)

3. 次年度の実験内容

実験メニュー	実験内容
バリアレス縁石、およびマウント設置工事	<ul style="list-style-type: none">バス車両が停留所に正着が可能となるバリアレス縁石を設置バス車両と停留所の段差を解消するマウントを乗車口に設置
正着状況調査 タイヤ摩耗性調査 必要空間の検討	<ul style="list-style-type: none">正着状況、タイヤ摩耗性を調査運転手にヒアリング、指導を行い、正着確率の向上を図る障がい者、高齢者、子育て世代等を対象にアンケート調査を行い、ユニバーサルデザインの視点でバス停留所等の必要空間を検討
効果分析、評価、とりまとめ	<ul style="list-style-type: none">調査データを集計、効果を分析、評価ユニバーサルデザインを考慮した空間構成、車道空間の利活用について提案

4. 次年度以降のスケジュール

- 令和2年4月: 関係機関協議完了
- 令和2年7～12月: 社会実験の実施
- 令和4年度: 新潟駅高架下交通広場に本格導入(予定)

新型コロナの影響により、
スケジュールを見直し中

5. 評価

- ・ バリアレス縁石を試験的に導入したバスの正着性に関する実験となっていること、次年度の社会実験に向けた実験計画が具体化されていることから、次年度も継続して実験を行うことが妥当と考える。

6. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
本実験の対象箇所として新潟駅ターミナルを選定しているが、新潟市が街全体のバリアフリーを考えた時、本当にその場所だけの検証だけで良いのか。今出来る事は限られているのだと思うが、本実験の取り組みでダメだった場合でも、次のステップに繋がる様な社会実験にするべきである。	バリアフリーを実現するためには様々な手法があると考えており、その内のひとつとして本実験を通じて検証したい。その上で、技術の進歩等に合わせて、適材適所でどういったことが出来るのか引き続き検討していきたい。